

福 山 地 区

国労岡山地本第
三支部福山地区
分会機 関 紙
発行者仁科達也
編集者福井充義
2022年12月14日
NO.13

第三回定期大会報告

福山地区分会は、十二月十日、福山保線区会議室で第三回定期大会を開催しました。

仁科分会長は、①JR西日本は、来年、児島、東岡山、新尾道駅に遠隔MVを導入し、人員削減を行おうとしている。駅の無人化を行ったことで、切符の買い方や列車の時間がわからないなどの苦情や、落とし物を駅に放置するという事象が起きていく。利用者の安全、サービスを切り捨ててきていることに対して抗議しなければならない。

②組織拡大が喫緊の課題であり、全組合員が取り組もう。との挨拶がありました。

地本青山書記長は、①来年、三月に窓口を閉鎖する児島駅、東岡山駅の交渉で、窓口は、閉鎖するが、多客期はマルスを残し、窓口を開けると回答。来年二月二十五日、児島駅、東岡山駅周辺で無人化反対の街宣行動を行う。岡山市や瀬戸内市と意見交換をし要求をまとめ交渉する。②JR西日本は、十月四日、「保線区における業務体制

の見直しについて」

「電気部門における工事業務のデジタル化について」「乗務員区所における事務業務の見直しについて」提案を行った。1、「保線区における業務体制の見直しについて」は、

A, 新しい技術を取り入れ検査業務を車上化する。B, 近傍の保線区を統合し、大現場区化を行う。大現場区になった保線区で、企画・設備それぞれの区長を配置していく。C, 山陽新幹線統括本部においては保線区を保線技術センターへ名称変更を行うとしており、全社で△80名、山陽新幹線統括本部△20名、近畿統括本部△40名、中国統括本部△20名で計画している。2、「乗務員区所にお

ける事務業務の見直しについて」

は全社で△35名 3、「電気部門における工事業務のデジタル化について」は全社で△45名としており、今後は現場で人員削減を行おうとしている。③列車にカメラを搭載しあらかじめレールに傷を人工的に作り正常に感知するか確かめる試験も行おうとしており、安全上問(裏へ)



題があるのではないかと危惧している。④年末手当は、1・8か月＋3万円（社員のみ）だが契約社員やシニア社員にも3万円支払えといってきた。今後も全社員に支払えと交渉していかなければならぬ。⑤来年の春闘は、定期昇給実施とベア一万三千元（昨年六千元）を要求していく。要求額の決定は、来年一月二八日の拡大中央委員会で決定される。との挨拶がありました。

討論は、①作責の手当てが百円では低すぎる。手当を上げてほしい。②福山列車区で年休が取れない実態が続いており、年休を十日流している。年休の買取はできないか。交渉で会社側は人員は足りていると言っているが、年休を流していることや、特休公休日に呼び出して出勤させられるのは人員が少ないから

ではないか。女性社員が増え、産休や育休で休んだら一人補充させ、予備率の計算方式を改めさせること。③交通共済の国民共済への移転手続きは、来年一月に新規移行の手続き書類が自宅に郵送されるからそれに記入し三月三日必着で返送すること。④金光、里庄、松永駅の自動券売機の二つのうち一つを撤去すると会社側はいつている。との討論がありました。

集約は、①作責の手当てを千円に引き上げよとの要求を分会として上げる。職場からも声を上げてほしい。②福山列車区で年休が取れない実態は、交渉を強化し、職場でも声を上げてほしい。③来年も様々な行動が入っている。全組合員が行動に参加していこう。④組織拡大は声掛けを忘れず全組合員が努力しようとの集約がありました。

新役員

執行委員長 仁科達也 笠岡駅
書記長 田川善高 福山新幹線保線区
執行委員 福井充義 福山新幹線電気区
会計監査員 三島伸吾 府中駅
会計監査員 松田秀明 福山新幹線保線区
新倉敷管理室

今委員会で佐藤書記長が退任されました
ご苦労様でした